

調査の概要

I. 調査の概要

1. 調査の目的

西東京市では、西東京市子育て・子育てワイワイプラン（西東京市子育て支援計画）の重点的な取組みのひとつとして「子どもの権利に関する条例」の策定を掲げている。平成20年1月には、西東京市子どもの権利に関する条例策定委員会を組織し、条例の策定に関する様々な課題や問題を検討している。このアンケート調査は、条例の策定に向け、西東京市の子どもの現状等を把握する目的で実施した。

2. 調査の方法

(1)調査対象

市内の小学校5年生以上の男女（内訳は下表のとおり）

対象区分	対象者数	抽出方法等
①小学5年調査	800人	市立小学校19校の小学5年生から抽出
②中学2年調査	800人	市立中学校9校の中学2年生から抽出
③16・17歳調査	800人	行政基本データから無作為抽出（平成3年4月2日生まれから平成4年4月1日生まれまで）
④おとな調査	3,000人	行政基本データから無作為抽出（18歳以上：2008年4月1日現在）
合計	5,400人	

(2)調査方法

調査	方法
①小学5年調査	市立小学校19校において配布し、家庭などで記入後自分で封筒に入れ、学校に設置した回収箱で回収
②中学2年調査	市立中学校9校において配布し、家庭などで記入後自分で封筒に入れ、学校に設置した回収箱で回収
③16・17歳調査	調査対象者宛に直接調査票を送付し、記入後返送（郵送回収）
④おとな調査	調査対象者宛に直接調査票を送付し、記入後返送（郵送回収）

(3)回収結果

調査	対象数	回収数（回収率）	有効回収数（有効回収率）
①小学5年調査	801人	720人（89.9%）	718人（89.6%）
②中学2年調査	807人	482人（59.7%）	481人（59.6%）
③16・17歳調査	800人	177人（22.1%）	177人（22.1%）
④おとな調査	3,000人	877人（29.2%）	870人（29.0%）
合計	5,408人	2,256人（41.7%）	2,246人（41.5%）

注：「有効回収数」とは、分析に使用した調査表記入者の人数

3. 調査票の構成

調査票の種類	①小学5年調査	②中学2年調査	③16・17歳調査	④おとな調査
	こども用アンケート用紙		16・17歳用アンケート用紙	大人用アンケート用紙
I. あなた自身のこと				
年齢	○	○	○	○
性別	○	○	○	○
子どもの有無	○	○	○	○
平日していること	○	○	○	○
西東京市は好きですか	○	○	○	○
おとなになっても西東京市に住みたいか	○	○	○	○
II. 子どもの生活などについて				
1. (1)自分のこと	〔問1〕	〔問1〕	〔問1〕	〔問1〕
(2)子どもが自分自身についてどう思っているか				〔問2〕
2. 子どもが、楽しく夢中になれると感じるとき	〔問2〕	〔問2〕	〔問2〕	〔問3〕
3. 子どもが、疲れること・不安に思うこと	〔問3〕	〔問3〕	〔問3〕	〔問4〕
4. 子どもが、ホッとできるとき	〔問4〕	〔問4〕	〔問4〕	〔問5〕
5. 子どもが、何でも話せる人	〔問5〕	〔問5〕	〔問5〕	〔問6〕
6. (1)子どもが、友だちや先輩などからされた「つらくてどうしようもないこと」	〔問6〕	〔問6〕	〔問6〕	〔問7〕
(2)その時の対応法	〔問6-1〕	〔問6-1〕	〔問6-1〕	
(3)相談相手・相談場所	〔問6-2〕	〔問6-2〕	〔問6-2〕	
(4)相談してよかったか	〔問6-3〕	〔問6-3〕	〔問6-3〕	〔問6-3〕
7. (1)子どもが、おとなから「つらくてどうしようもないこと」	〔問7〕	〔問7〕	〔問7〕	〔問8〕
(2)その時の対応法	〔問7-1〕	〔問7-1〕	〔問7-1〕	
(3)相談場所・相談した人	〔問7-2〕	〔問7-2〕	〔問7-2〕	
(4)相談してよかったか	〔問7-3〕	〔問7-3〕	〔問7-3〕	
8. (1)子どもをたいたことがあるか				〔問9〕
(2)たたく理由				〔問9-1〕
9. (1)子どもを大声でしかるか				〔問10〕
(2)大声でしかることの理由				〔問10-1〕
III. 子どもの相談機関				
1. (1)相談機関を知っているか	〔問8〕	〔問8〕	〔問8〕	〔問11〕
(2)知っているけど利用した事がない理由	〔問8-1〕	〔問8-1〕	〔問8-1〕	〔問11-1〕
(3)利用したきっかけ(・おとな調査)				〔問11-2〕
2. 相談したい相談窓口	〔問9〕	〔問9〕	〔問9〕	〔問12〕
3. 子どものことで悩んだ時に相談したい相談窓口				〔問13〕
IV. 子ども自身のことや暮らしのこと				
1. (1)子どもが、子ども自身のことや暮らしのことの決定権	〔問10〕	〔問10〕	〔問10〕	〔問14〕
(2)子ども自身のことや暮らしのことの決定権				〔問14-1〕
2. 子どもと接する時の心がけ	〔問11〕	〔問11〕	〔問11〕	〔問15〕
V. 意見(自由記述)				
	○	○	○	○

4. 調査報告書の見方

- (1)調査結果の数値(図表中)は、「回答率(%)」で示している。%の母数は、その質問項目に該当する回答者総数、あるいは分類別の回答者数であり、その数は「Nおよび総数」で示している。
- (2)百分比は小数点第2位で四捨五入し、小数点第1位までを示した。よって、単1回答(答えが1つだけのもの)の回答比率の合計値は100.0%にならない場合がある。
- (3)回答比率は、その設問の回答者総数、あるいは分類別の回答者数を基数として算出しており、複数回答(2つ以上の回答が認められたもの)の設問では、百分比の合計が100.0%を超える場合がある。
- (4)回答率のうち、回答者が0人の場合は0.0%、回答者が1人でもおり、0.01~0.04%の場合は0.1%。

5. 分析方法

分析は、①調査票別、②自己肯定感(自分のことが好きだ)別、③子どもの有無別のクロス集計を実施した。ところで、②自己肯定感は、全ての調査の問1の「自分のことが好きか」の選択肢の『そう思う』『まあそう思う』の合計を『好きと思う』、『そう思わない』『あまりそう思わない』の合計を『好きと思わない』とした(詳細はP23を参照)。③の子どもの有無別は、『おとな調査』のみで、『18歳未満の子どもがいる』『18歳以上の子どもがいる』『両方の子どもがいる』の合計を『子どもがいる』とし、『子どもがいない』はそのままとした(詳細はP19を参照)。なお、全て『無回答』は除いた。

分析及び報告書作成は「特定非営利活動法人 子どもの権利条約総合研究所(主担当:東京福祉大学 林幸範)」が担当した。

Ⅱ. 調査結果の概要

今回の調査から、以下のような特徴が明らかとなった。なお、現在の西東京市の特徴を明らかにするために、平成14年に西東京市で実施した『西東京市子どもの生活と家庭の実態・意向調査』（これ以降『小学4～6年調査(平成14年)』・『中学・高校生調査(平成14年)』とする)、さらに同様な調査(『子ども調査』・『おとな調査』)を実施した他地域(A県(人口：約713万人)、B自治体(人口：約17.7万人)、C自治体(人口：約19.0万人)、D自治体(人口：約16.0万人)、E自治体(人口：11.7万人)、F自治体(人口：約11.3万人)、G自治体(人口：約4.3万人)の7地域)の公表された報告書などを参考とした。

1. あなた自身のこと

(1)年齢

『小学5年調査』・『中学2年調査』・『16・17歳調査』では対象年齢が大半で、『おとな調査』は40歳代が最も多い。

(2)性別

『小学5年調査』では男女ともほぼ同じ、『中学2年調査』・『16・17歳調査』・『おとな調査』では女性が多く、調査対象年齢が増加するに従って女性の割合が増加。

(3)子どもの有無

『おとな調査』では子どもがいるが7割以上で、そのうち18歳未満の子どもがいるのが3割弱。
他地域の7地域の『おとな調査』でもほぼ同じ。

(4)平日していること

『小学5年調査』・『中学2年調査』・『16・17歳調査』では、学校へ通っているものが約9割で最も多い。
他地域の7地域の『こども調査』でも同じ。

(5)西東京市が好きか

『小学5年調査』・『中学2年調査』・『16・17歳調査』・『おとな調査』では、西東京市が好きが8割以上。

(6)西東京市でくらしたいか

『小学5年調査』・『おとな調査』では、西東京市でくらしたいものが7割前後、『中学2年調査』・『16・17歳調査』では、西東京市でくらしたいものと別の場所でくらしたいものとがほぼ同じ。

2. 子どもの生活などについて

(1)自分のこと

ア. 自分のこと

(7)自分のことが好きか(自己肯定感)

『小学5年調査』・『おとな調査』・『中学・高校生調査(平成14年)』では、自分のことを好きと思うが多く、『中学2年調査』では、逆に自分のことを好きと思わないが多く、『16・17歳調査』・『小学4～6年調査(平成14年)』では、自分のことを好きと思う・思わないがほぼ同じ。

他地域の4地域(B自治体、C自治体、E自治体、F自治体)の『子ども調査』・7地域の『おとな調査』では、自分のことを好きと思うが多く、3地域(A県、D・G自治体)の『子ども調査』では、逆に自分のことを好きと思う・思わないがほぼ同じ。

よって、基本的には肯定的な自己肯定感があるが、中学生の自己肯定感が低いといえよう。

(イ)自分は人から必要とされている

『小学5年調査』・『おとな調査』では、自分は人から必要とされていると思うが多く、『中学2年調査』・『小学4～6年調査(平成14年)』では、逆に自分は人から必要とされていると思わないが多く、『16・17歳調査』・『中学・高校生調査(平成14年)』では、自分は人から必要とされていると思う・思わないがほぼ同じ。

他地域の6地域(A県、C・D・E・F・G自治体)の『子ども調査』・7地域の『おとな調査』では、自分は人から必要とされていると思うが多く、1地域(B自治体)の『子ども調査』では、自分は人から必要とされていると思う・思わないがほぼ同じ。

よって、おとなでは自分を必要とされていると思っているが、高校生の年齢の子ども達は、その傾向が弱くなっているといえよう。

(ウ) 自分のことを誰もわかってくれない

『小学5年調査』・『中学2年調査』・『16・17歳調査』・『おとな調査』・『小学4～6年調査(平成14年度)』・『中学・高校生調査(平成14年度)』では、自分のことを誰もわかってくれないと思わないが7割以上。
よって、誰もが自分のことを誰もわかってくれないとは思っていないといえよう。

(エ) 周りの人とあまり違わないようにしている

『小学5年調査』・『中学2年調査』・『おとな調査』では、周りの人とあまり違わないようにしていると思う・思わないがほぼ同じ、『16・17歳調査』・『小学4～6年調査(平成14年度)』・『中学・高校生調査(平成14年度)』では、周りの人とあまり違わないようにしていると思わないが多い。

よって、平成14年の子ども調査では周りの人とあまり違わないようにしていると思わないであったが、今回の調査では、ほぼ同じになってきている。

(オ) 社会に役立つことをしたい

『小学5年調査』・『中学2年調査』・『16・17歳調査』・『おとな調査』では、社会に役立つことをしたいと思うが多く、『小学4～6年調査(平成14年度)』・『中学・高校生調査(平成14年度)』では、逆に社会に役立つことをしたいと思わないが多い。

他地域の7地域の『子ども調査』と『おとな調査』では、社会に役立つことをしたいと思うが多い。

よって、平成14年の子ども調査では、社会に役立つことをしたいと思わないが多かったが、現在の調査では逆に社会に役立つことをしたいと思うが多くなった。

イ. 子どもが自分自身についてどう思っているか

(7) 自分のことが好きだと思っていると思う

『おとな調査』では、自分のことが好きだと思っていると思うが多い。

他地域の7地域の『おとな調査』では、自分のことが好きだと思っていると思うが多い。

(イ) 自分は人から必要とされていると思っていると思う

『おとな調査』では、自分は人から必要とされていると思っていると思うが多い。

他地域の7地域の『おとな調査』では、自分は人から必要とされていると思っていると思うが多い。

(ウ) 自分のことを誰もわかってくれないと思っていると思う

『おとな調査』では、自分のことを誰もわかってくれないと思っていると思わないが多い。

(エ) 周りの人とあまり違わないようにしていると思っていると思う

『おとな調査』では、周りの人とあまり違わないようにしていると思っていると思う・思わないがほぼ同じ。

(オ) 社会に役立つことをしたいと思っていると思う

『おとな調査』では、社会に役立つことをしたいと思っていると思うが多く、『小学4～6年調査(平成14年度)』・『中学・高校生調査(平成14年度)』では、逆に社会に役立つことをしたいと思っていると思わないが多い。

他地域の5地域(A県、C・D・E・G自治体)の『おとな調査』では、社会に役立つことをしたいと思っていると思うが多く、2地域(B・F自治体)の『おとな調査』では、社会に役立つことをしたいと思っていると思う・思わないがほぼ同じ。

以上のことから、おとなは、子ども達のことを肯定的に思っていると言えよう。

(2)子どもが、楽しく夢中になれると感じるとき(上位3位)

「楽しく夢中になれると感じるとき」の上位3位は、『小学5年調査』・『おとな調査』では『友だちと遊んでいるとき』・『学校での休み時間』・『クラブ活動・部活動』、『中学2年調査』・『16・17歳調査』では『友だちと遊んでいるとき』・『クラブ活動・部活動』・『テレビやDVDを観ているとき』の順。

他地域の『子ども調査』の上位3位は、1地域(A県)では『クラブ活動・部活動』・『学校での勉強』・『おけいこ・習いごと』、1地域(B自治体)では『クラブ活動・部活動』・『友だちと遊んでいるとき』・『自分一人で読書やゲームなど遊んでいるとき』、1地域(C自治体)では『クラブ活動・部活動』・『友だちと遊んでいるとき』・『学校での勉強』、3地域(D・F・G自治体)では『友だちと遊んでいるとき』・『クラブ活動・部活動』・『学校での勉強』、1地域(E自治体)では『友だちと遊んでいるとき』・『クラブ活動・部活動』・『学校での勉強』の順。他地域の『おとな調査』の上位3位は、1地域(A県)では『クラブ活動・部活動』・『おけいこ・習いごと』・『住んでいる地域のスポーツ活動』、2地域(B・G自治体)では『友だちと遊んでいるとき』・『おけいこ・習いごと』・『クラブ活動・部活動』、2地域(C・F自治体)では『友だちと遊んでいるとき』・『クラブ活動・部活動』・『おけいこ・習いごと』、1地域(D自治体)では『おけいこ・習いごと』・『クラブ活動・部活動』・『友だちと遊んでいるとき』、1地域(E自治体)では『クラブ活動・部活動』・『友だちと遊んでいるとき』・『おけいこ・習いごと』の順。

よって、子ども達が楽しくできる夢中になれるのは、友だちと遊んでいる時と学校を中心としたことで

あり、おとな達もそのように認識している傾向がある。

(3)子どもが、疲れること・不安に思うこと(上位3位)

「疲れること・不安に思うこと」の上位3位は、『小学5年調査』では『学校の勉強・宿題』・『受験・進路』・『塾での勉強・宿題』、『中学2年調査』では『学校の勉強・宿題』・『受験・進路』・『友だちや先輩のこと』、『16・17歳調査』では『学校の勉強・宿題』・『受験・進路』・『クラブ活動・部活動』、『おとな調査』では『受験・進路』・『学校の勉強・宿題』・『塾での勉強・宿題』の順。

他地域の上位3位は、7地域の『子ども調査』では『学校の勉強・宿題』・『受験・進路』・『友だちや先輩のこと』、『16・17歳調査』では『学校の勉強・宿題』・『受験・進路』・『クラブ活動・部活動』、『おとな調査』では『受験・進路』・『学校の勉強・宿題』・『塾での勉強・宿題』、4地域(A県、C・D・E自治体)の『おとな調査』が『友だちや先輩のこと』・『受験・進路』・『学校の勉強・宿題』、3地域(B・F・G自治体)の『おとな調査』が『友だちや先輩のこと』・『学校の勉強・宿題』・『受験・進路』の順。

よって、子どもが疲れること・不安に思うことは、学校での勉強を中心にしたことであると子どもやおとなたちは思っているが、他地域の『おとな調査』では友だちや先輩のことも原因と考えていると思われる。

(4)子どもが、ホッとできるとき(上位3位)

「ホッとできるとき」の上位3位は、『小学5年調査』では『友だちと遊んだりしているとき』・『寝ているとき』・『家族と遊んだり話したりしているとき』、『中学2年調査』・『中学・高校生調査(平成14年度)』では『寝ているとき』・『友だちと遊んだりしているとき』・『自分の部屋にいるとき』、『16・17歳調査』では『寝ているとき』・『自分の部屋にいるとき』・『友だちと遊んだりしているとき』、『おとな調査』では『友だちと遊んだりしているとき』・『家族と遊んだり話したりしているとき』・『寝ているとき』、『小学4～6年調査(平成14年度)』では『寝ているとき』・『友だちと遊んだりしているとき』・『お風呂に入っているとき』の順。

他地域の上位3位は、2地域(A県、D自治体)の『子ども調査』・4地域(A県、B・C・D自治体)の『おとな調査』では『自分の部屋にいるとき』・『家族と一緒にくつろぐ部屋』・『祖父母の家にいるとき』、3地域の『子ども調査』(B・C・E自治体)では『自分の部屋にいるとき』・『家族と一緒にくつろぐ部屋』・『学校の教室』、2地域(F・G自治体)の『子ども調査』と1地域(E自治体)の『おとな調査』では『自分の部屋にいるとき』・『家族と一緒にくつろぐ部屋』・『友だちの家』、1地域(G自治体)の『おとな調査』では『家族と一緒にくつろぐ部屋』・『自分の部屋にいるとき』・『祖父母の家にいるとき』、1地域(F自治体)の『おとな調査』では『家族と一緒にくつろぐ部屋』・『自分の部屋にいるとき』・『友だちの家』の順。

よって、子どもがホッとできるのは、基本的には自分の部屋にいたり、友だちなどと遊ぶことであるが、おとなは、家族と一緒にいることでくつろぐと思っている傾向がある。また、寝ているときがくつろぐということが上位にある。

(5)子どもが、何でも話せる人(上位3位)

「自分が話したいことをなんでも話せる人」の上位3位は、『小学5年調査』・『おとな調査』では『親』・『友だち』・『兄弟姉妹』、『中学2年調査』・『16・17歳調査』では『友だち』・『親』・『兄弟姉妹』の順。

他地域の上位3位は、2地域(C・E自治体)の『おとな調査』では『親』・『友だち』・『兄弟姉妹』、7地域の『子ども調査』・1地域(A県)の『おとな調査』では『友だち』・『親』・『兄弟姉妹』、2地域(B・F自治体)の『おとな調査』では『親』・『友だち』・『祖父母』、2地域(D・G自治体)の『おとな調査』では『親』・『友だち』・『兄弟姉妹；祖父母』の順。

よって、親や友だちには子どもが何でも話せると子どももおとなも認識していると言えよう。

(6)子どもが、友だちや先輩などからされた「つらくてどうしようもないこと」

ア. つらくてどうしようもないこと(上位3位)

「友だちや先輩などから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『小学5年調査』では『心を傷つけられる言葉を言われた』・『無視された、仲間外れにされた』・『されたことはない』、『中学2年調査』・『16・17歳調査』では『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『無視された、仲間外れにされた』、『おとな調査』では『心を傷つけられる言葉を言われた』・『されたことはない』・『無視された、仲間外れにされた』の順。

他地域の上位3位は、6地域(A県、B・C・D・E・G自治体)の『おとな調査』では『心を傷つけられる言葉を言われた』・『無視された、仲間外れにされた』・『されたことはない』、7地域の『子ども調査』

では『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『無視された、仲間外れにされた』、1地域(F自治体)の『おとな調査』では『心を傷つけられる言葉を言われた』・『無視された、仲間外れにされた』・『たたかれたり、けられたりした』の順。

よって、友だちや先輩などから心を傷つけられる言葉を言われたり、無視された、仲間外れにされたことが多いが、その逆に、されたことはないものも多かった。

イ. その時の対応法(小学5年調査・中学2年調査・16・17歳調査)(上位3位)

「『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応」の上位3位は、『小学5年調査』では『誰か他の人に相談した』・『がまんした』・『やめてほしいと言った』、『中学2年調査』・『16・17歳調査』では『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『やめてほしいと言った』の順。

他地域の上位3位は、5地域(A県、C・E・F・G自治体)の『子ども調査』では『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『やめてほしいと言った』、1地域(B自治体)の『子ども調査』では『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『しかえしをした』、1地域(D自治体)の『子ども調査』では『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『無回答』(『やめてほしいと言った』)の順。

よって、つらくてどうしようもないことをされたときの対応は、基本的には、誰かに相談をするか、逆にがまんをする傾向がある。

ウ. 相談相手・相談場所(小学5年調査・中学2年調査・16・17歳調査)(上位3位)

「相談相手・相談場所」の上位3位は、『小学5年調査』・『16・17歳調査』では『親』・『友だち』・『担任の先生』、『中学2年調査』では『友だち』・『親』・『担任の先生』の順。

他地域の上位3位は、4地域(A県、C・E・G自治体)の『子ども調査』では『親』・『友だち』・『担任の先生』、3地域(B・D・F自治体)の『子ども調査』では『友だち』・『親』・『担任の先生』の順。

よって、子ども達の相談相手は、親や友だち、担任の先生が大半である。

エ. 相談してよかったか(小学5年調査・中学2年調査・16・17歳調査)

『小学5年調査』・『中学2年調査』・『16・17歳調査』では、相談してよかったが多い。

他地域の7地域の『子ども調査』では、相談してよかったが多いが、4地域(A県、B・C・F自治体)の『子ども調査』では、相談しても変わらなかったが約2割ある。

よって、基本的には、相談してよかったと思っている。

(7)子どもがおとなからされたことのある「つらくてどうしようもないこと」

ア. つらくてどうしようもないこと

(7) 先生(学校や児童福祉施設の先生)から(上位3位)

「先生(学校や児童福祉施設の先生)から、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『小学5年調査』・『中学2年調査』では『されたことはない』・『話を聞いてもらえなかった』・『心を傷つける言葉を言われた』、『16・17歳調査』・『おとな調査』では『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順。

よって、先生からつらいことはされたことがないものが多いが、された場合は、話を聞いてもらえなかった・心を傷つける言葉を言われたなど精神的なうちが多いようである。

(イ) 親(保護者)から(上位3位)

「親(保護者)から、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『小学5年調査』・『16・17歳調査』・『おとな調査』では『されたことはない』・『たたかれた・けられた』・『話を聞いてもらえなかった』、『中学2年調査』では『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『たたかれた・けられた』の順。

よって、親からつらいことはされたことがないものが多いが、された場合は、心を傷つける言葉を言われたなど精神的なうちや、直接的な暴力が多いようである。

(ウ) 塾や習い事の先生・監督・コーチから(上位3位)

「塾や習い事の先生・監督・コーチから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『小学5年調査』では『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『たたかれた・けられた』；話を聞いてもらえなかった』、『中学2年調査』では『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『たたかれた・けられた』、『16・17歳調査』・『おとな調査』では『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順。

よって、塾や習いごとの先生や監督などからつらいことはされたことがないものが多いが、された場合は、心を傷つける言葉を言われたなど精神的なうちや、直接的な暴力が多いようである。

(エ) その他のおとなから(上位3位)

「その他のおとなから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『小学5年調査』では『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『たたかれた・けられた；話を聞いてもらえなかった』、『中学2年調査』・『16・17歳調査』では『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『体を触られたり、性的に嫌なことをされた』、『おとな調査』では『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順。

よって、その他のおとなからつらいことはされたことがないものが多いが、された場合は、心を傷つける言葉を言われたなど精神的なしうちや、直接的な暴力、さらに体を触られたり、性的に嫌なことがなどが多いようである。

イ. 『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応法

(小学5年調査・中学2年調査・16・17歳調査)(上位3位)

「『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応法」の上位3位は、『小学5年調査』・『16・17歳調査』では『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『何もしなかった』、『中学2年調査』では『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『何もしなかった；しかえしをした』の順。

他地域の上位3位は、1地域(B自治体)の『子ども調査』では『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『その他』、1地域(D自治体)の『子ども調査』では『無回答』・『がまんした』・『誰か他の人に相談した』(『やめてほしいと言った』)、1地域(F自治体)の『子ども調査』では『がまんした』・『やめてほしいと言った』・『誰か他の人に相談した』、4地域(A県、C・E・G自治体)の『子ども調査』では『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『やめてほしいと言った』の順。

よって、つらくてどうしようもないときの対応法としては、がまんしたり・何もしないことが多く、相談をする場合でも誰か他の人に相談をすることが多い。

ウ. 相談相手・相談場所(小学5年調査・中学2年調査・16・17歳調査)(上位3位)

「相談相手・相談場所」の上位3位は、『小学5年調査』では『親』・『友だち』・『祖父母』、『中学2年調査』では『友だち』・『親』・『兄弟姉妹』、『16・17歳調査』では『友だち』・『親』・『インターネット掲示板；保健室の先生；その他』の順。

地域の上位3位は、2地域(E・F自治体)の『子ども調査』では『友だち』・『親』・『兄弟姉妹』、『16・17歳調査』では『友だち』・『親』・『インターネット掲示板；保健室の先生；その他』、2地域(A県、C自治体)での『子ども調査』は『親』・『友だち』・『担任の先生』、2地域(B・G自治体)の『子ども調査』では『親』・『友だち』・『兄弟姉妹』、1地域(D自治体)の『子ども調査』では『親』・『友だち』・『無回答』(『祖父母』)の順。

よって、相談相手は、親・友だちが中心であり、本格的な相談機関や相手など少ない。

エ. 相談してよかったか(小学5年調査・中学2年調査・16・17歳調査)

『小学5年調査』・『中学2年調査』・『16・17歳調査』では、相談してよかったが多い。

他地域の7地域の『子ども調査』では、相談してよかったが多いが、1地域(C自治体)の『子ども調査』以外では、相談しても変わらなかったが2～3割いる。

よって、つらいことをされて相談してよかったと思っているが、その反面解決しなかった子ども達も少数ではあるがいる。

(8)子どもをたたくことがあるか(おとな調査)

ア. 子どもをたたいたことの有無

『おとな調査』では、30.4%が子どもをたたくことがある。

イ. たたく理由(上位3位)

「子どもをたたく理由」の上位3位は、『おとな調査』では『言葉で言ってもわからないから』・『しつけとして』・『悪いことをしたから罰として』の順。

以上より、しつけや言ってもわからない・罰としてなどの理由から3割のおとなが子どもたたいているようである。

(9)子どもを大声でしかるか(おとな調査)

ア. 大声でしかることの有無

『おとな調査』では、58.0%が子どもを大声でしかることがある。

イ. 大声でしかる理由(上位3位)

「子どもを大声でしかる理由」の上位3位は、『おとな調査』では『言葉で言ってもわからないから』・『しつけとして』・『子どもが危険な目にあいそうだから』の順。

以上より、しつけや言ってもわからない、危険からの回避などの理由から6割のおとなが子どもを大声でしかっているようである。

3. 子どもの相談機関

(1) 相談機関の既知と利用

ア. 相談機関を知っているか

(7) 相談機関を知っているか(上位3位)

「知っている子どもの相談機関など」の上位3位は、『小学5年調査』では『学校内の相談室』・『児童館』・『チャイルドライン』、『中学2年調査』・『16・17歳調査』では『学校内の相談室』・『児童館』・『児童相談所』、『おとな調査』では『児童館』・『児童相談所』・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』の順。

よって、自分の身近にある相談機関は知っている傾向がある。

(イ) 相談機関を利用したか(上位3位)

「利用したことがある子どもの相談機関など」の上位3位は、『小学5年調査』では『児童館』・『学校内の相談室』・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』、『中学2年調査』・『16・17歳調査』では『児童館』・『学校内の相談室』・『保育園』、『おとな調査』では『児童館』・『保育園』・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』の順。

よって、知っているが、利用することは少ない傾向がある。

イ. 知っているけど利用したことがない理由(小学5年調査・中学2年調査・16・17歳調査)(上位2位)

「知っている子どもの相談機関を利用しない理由」の上位2位は、『小学5年調査』では『相談することがないから』・『相談した後どうなるのかわからないから』、『中学2年調査』・『16・17歳調査』の順。

他地域の上位2位は、2地域(D・F自治体)の『子ども調査』・2地域(E・F自治体)の『おとな調査』では『相談することがないから』・『相談しても、よくならないと思うから』、1地域(C自治体)の『子ども調査』・2地域(D・G自治体)の『おとな調査』では『相談することがないから』・『その他』、1地域(A県)の『子ども調査』では『その他』・『相談しても、よくならないと思うから』、1地域(A県)の『おとな調査』では『その他』・『電話番号など相談方法がわからないから』、1地域(E自治体)の『子ども調査』では『相談することがないから』・『相談しても、よくならないと思うから』；相談したことを、誰かに知られたら嫌だから、1地域の(C自治体)『おとな調査』では『相談することがないから』・『相談しても、よくならないと思うから』；電話番号など相談方法がわからないから、1地域(B自治体)の『おとな調査』では『無回答』・『相談することがないから』(『相談しても、よくならないと思うから』)の順。

よって、知っている子どもの相談機関を利用しない理由としては、相談することがないからが多く、想してもよくならないと思うからや、相談したことを誰かに知られたら嫌だからという相談機関に対するマイナスのイメージがあるといえよう。

ウ. 相談を受けてくれるところを利用したきっかけ(おとな調査)(上位3位)

「相談を受けてくれるところを利用したきっかけ」の上位3位は、『おとな調査』では『信頼できる機関だと思ったから』・『子どもに関する事案を相談したかったから』・『これまでに何回か利用したことがあるから』の順。

よって、信頼性や複数回利用などがきっかけとなっているといえよう。

(2) 相談しようと思う相談窓口(上位3位)

「相談しようと思う相談窓口」の上位3位は、『小学5年調査』では『聞いたことは秘密にしてくれる』・『どんな話でも聞いて受け止めてくれる』・『自分と年齢の近い子ども・人に相談できる』、『中学2年調査』では『聞いたことは秘密にしてくれる』・『どんな話でも聞いて受け止めてくれる』・『問題の解決法を教えてくれる』、『16・17歳調査』では『聞いたことは秘密にしてくれる』・『どんな話でも聞いて受け止めてくれる』・『適当なアドバイスをくれる』、『おとな調査』では『どんな話でも聞いて受け止めてくれる』・『聞いたことは秘密にしてくれる』・『メールで相談できる』の順。

他地域の上位3位は、1地域(C自治体)の『子ども調査』では『聞いたことは秘密にしてくれる』・『どんな話でも聞いて受け止めてくれる』・『問題の解決法を教えてくれる』、1地域(A県)の『子ども調査』では『どんな話でも聞いて受け止めてくれる』・『聞いたことは秘密にしてくれる』・『自分と年齢の近い子ども・人に相談できる』、2地域(B・D自治体)の『子ども調査』・6地域(B・C・D・E・F・G自治

体)の『おとな調査』では『どんな話でも聞いて受け止めてくれる』『聞いたことは秘密にしてくれる』『問題の解決法を教えてくれる』、1地域(G自治体)の『子ども調査』では『問題の解決法を教えてくれる』『どんな話でも聞いて受け止めてくれる』『聞いたことは秘密にしてくれる』、2地域(E・F自治体)の『子ども調査』では『聞いたことは秘密にしてくれる』『どんな話でも聞いて受け止めてくれる』『お金(電話代など)がかからないところ』、1地域(A県)の『おとな調査』では『どんな話でも聞いて受け止めてくれる』『24時間相談できる』『困ったとき、いつでもかけこめるところ』の順。

よって、相談したい相談窓口としては、西東京市では、聞いたことは秘密にしてくれる・どんな話でも聞いて受け止めてくれるが多く、他地域では、それ以外に、問題の解決法を教えてくれるが多い。

(3)子どものことで悩んだ時に相談したい相談窓口・救済機関(おとな調査)(上位3位)

「子どものことで悩んだ時に相談したい相談窓口・救済機関」の上位3位は、『おとな調査』では『聞いたことは秘密にしてくれる』『どんな話でもきいて受け止めてくれる』『直接会って相談できる』の順。

他地域の上位3位は、1地域(A県)の『おとな調査』では『どんな話でもきいて受け止めてくれる』『子どもの問題の専門家がいるところ』『自分と同じように悩んだり困ったりしている人がいるところ』、3地域の『おとな調査』(C・D・G自治体)では『聞いたことは秘密にしてくれる』『どんな話でもきいて受け止めてくれる』『問題の解決法を教えてくれる』、3地域(B・E・F自治体)の『おとな調査』では『どんな話でもきいて受け止めてくれる』『聞いたことは秘密にしてくれる』『問題の解決法を教えてくれる』の順。

よって、子どものことで悩んだ時の相談窓口としては、聞いたことは秘密にしてくれる・どんな話でもきいて受け止めてくれるが多いが、他地域では、それ以外に問題の解決法を教えてくれるが多い。

4. 子ども自身のことや暮らしのこと

(1)子どもが、子ども自身のことや暮らしのことの決め方

ア. 子どもが、子ども自身のことや暮らしのことの決め方

(7)自分で決めたいこと(上位3位)

「子ども自身のことや暮らしのことについての決め方」の上位3位は、『小学5年調査』では『友達』『恋愛』『進路や将来』、『中学2年調査』『16・17歳調査』『おとな調査』では『友達』『恋愛』『服装・髪型・ファッション』の順。

(イ)親やおとなに相談して自分で決めたい(上位3位)

「子ども自身のことや暮らしのことについての決め方」の上位3位は、『小学5年調査』では『学校に行くか、休むか』『塾や習い事に行くかどうか』『風呂・食事・勉強などの生活時間』、『中学2年調査』では『進路や将来』『塾や習い事に行くかどうか』『学校に行くか、休むか』、『16・17歳調査』では『進路や将来』『引っ越し・家などの大きな買い物』『仕事・アルバイト』、『おとな調査』では『進路や将来』『塾や習い事に行くかどうか』『仕事・アルバイト』の順。

(ウ)親やおとなに相談して一緒に決めたい(上位3位)

「子ども自身のことや暮らしのことについての決め方」の上位3位は、『小学5年調査』では『引っ越し・家などの大きな買い物』『家族のイベント』『門限など家庭内のルール』、『中学2年調査』『16・17歳調査』では『家族のイベント』『親の離婚・再婚』『引っ越し・家などの大きな買い物』、『おとな調査』では『家族のイベント』『親の離婚・再婚』『門限など家庭内のルール』の順。

(エ)親やおとなに決めてほしいこと(上位3位)

「子ども自身のことや暮らしのことについての決め方」の上位3位は、『小学5年調査』では『市の重要なこと』『授業の内容』『お祭りなど地域の行事』、『中学2年調査』では『市の重要なこと』『授業の内容』『児童館・公園の使い方』、『16・17歳調査』では『市の重要なこと』『授業の内容』『お祭りなど地域の行事；親の離婚・再婚』、『おとな調査』では『市の重要なこと』『子どもに係わる市の重要なこと』『授業の内容』の順。

(オ)きょうだいや友だちなど子どもに相談して自分で決めたい(上位3位)

「子ども自身のことや暮らしのことについての決め方」の上位3位は、『小学5年調査』では『クラスのルール』『運動会など行事』『児童会や生徒会の活動』、『中学2年調査』では『恋愛』『児童会や生徒会の活動』『クラスのルール』、『16・17歳調査』では、『服装・髪型・ファッション』『恋愛』『児童会や生徒会の活動；授業の内容；塾や習い事に行くかどうか』、『おとな調査』では『児童会や生徒会の活動』『担任の先生』『恋愛』の順。

(カ)きょうだいや友だちなど子どもに相談して一緒に決めたい(上位3位)

「子ども自身のことや暮らしのことについての決め方」の上位3位は、『小学5年調査』では『クラスのルール』『児童会や生徒会の活動』『運動会など行事』、『中学2年調査』『おとな調査』では『クラスのルール』『運動会など行事』『児童会や生徒会の活動』、『16・17歳調査』では『運動会など行事』『ク

ラスのルール』・『児童会や生徒会の活動』の順。

(キ) 他の子に決めてほしい(上位3位)

「子ども自身のことや暮らしのことについての決め方」の上位3位は、『小学5年調査』では『児童会や生徒会の活動』・『クラスのルール』・『子ども会議など子どものための会のこと』、『中学2年調査』・『16・17歳調査』では『児童会や生徒会の活動』・『子ども会議など子どものための会のこと』・『運動会など行事』、『おとな調査』では『児童会や生徒会の活動』・『子ども会議など子どものための会のこと』・『市の重要なこと；子どもに係わる市の重要なこと』の順。

(ク) その他・無回答

『その他』は、『小学5年調査』の「運動会など行事」「風呂・食事・勉強などの生活時間」「引っ越し・家などの大きな買い物」「児童館・公園の使い方」をのぞいた項目が1%未満。『無回答』は、『小学5年調査』の「宗教など自分の信仰」、『おとな調査』の「担任の先生」「授業の内容」「市の重要なこと」「子どもに係わる市の重要なこと」をのぞいた項目が10%未満。

以上より、子ども自身のことや暮らしのことについての決め方は、友達・恋愛・服装・髪型・ファッションなど自分に直接関わるようなことは自分で決めたいが、直接関係のないような市の重要なこと・授業の内容・お祭りなど地域の行事に関しては、親やおとなが決めればよいと考えているようである。

イ. 子ども自身のことや暮らしのことを決めるときの決め方(おとな調査)

(7) 自分で決めたいこと(上位3位)

「子ども自身や暮らしのことを決めるときの決め方」の上位3位は、『おとな調査』では「友達」・「恋愛」・「服装・髪型・ファッション」の順。

(イ) 親やおとなに相談して自分で決めたい(上位3位)

「子ども自身や暮らしのことを決めるときの決め方」の上位3位は、『おとな調査』では「進路や将来」・「塾や習い事に行くかどうか」・「バイクの免許」の順。

(ウ) 親やおとなに相談して一緒に決めたい(上位3位)

「子ども自身や暮らしのことを決めるときの決め方」の上位3位は、『おとな調査』では「家族のイベント」・「引っ越し・家などの大きな買い物」・「門限など家庭内のルール」の順。

(エ) 親やおとなに決めてほしいこと(上位3位)

「子ども自身や暮らしのことを決めるときの決め方」の上位3位は、『おとな調査』では「市の重要なこと」・「授業の内容；担任の先生」の順。

(オ) きょうだいや友だちなど子どもに相談して自分で決めたい(上位3位)

「子ども自身や暮らしのことを決めるときの決め方」の上位3位は、『おとな調査』では「親の離婚・再婚」・「家族のイベント；児童会や生徒会の活動」の順。

(カ) きょうだいや友だちなど子どもに相談して一緒に決めたい(上位3位)

「子ども自身や暮らしのことを決めるときの決め方」の上位3位は、『おとな調査』では「児童会や生徒会の活動」・「クラスのルール」・「運動会など行事」の順。

(キ) 他の子に決めてほしい(上位3位)

「子ども自身や暮らしのことを決めるときの決め方」の上位3位は、『おとな調査』では「児童会や生徒会の活動」・「子ども会議など子どものための会のこと」・「校則など学校のルール」の順。

(ク) その他・無回答

『おとな調査』の『その他』は全ての項目で1%以下、「児童館・公園の使い方」・「市の重要なこと」・「学校に行くか、休むか」の3項目で0.0%。『おとな調査』の『無回答』は10～30%。

以上より、子ども自身のことや暮らしのことを決めるときの決め方については、友達・恋愛・服装・髪型・ファッションなど自分に直接関わるようなことは自分で決めたいが、直接関係のないような市の重要なこと・授業の内容・担任の先生などに関しては親やおとなが決め、子ども会議や学校のルールなどは、他の子に決めてほしいと考えているようである。

(2)子どもと接するときのおとな心がけ(上位3位)(地域はA県を除いた6地域)

「子どもと接するときのおとなの心がけ」の上位3位は、『小学5年調査』では『話を真剣に聴く：話をもっと真剣に聞いてほしい』・『友達や兄弟姉妹とくらべないでほしい』・『自分のことは自分で決めさせてほしい』、『中学2年調査』では『自分のことは自分で決めさせてほしい』・『きまりや約束ことを一方的に押しつけないでほしい』・『友達や兄弟姉妹とくらべないでほしい』、『16・17歳調査』では『きまりや約束ごとを一方的に押しつけないでほしい』・『自分のことは自分で決めさせてほしい』・『ねほりはほりきいたり、あれこれ世話をしないでほしい』、『おとな調査』では『話を真剣に聴く：話をもっと真剣に聞いてほしい』・『約束を守ってほしい』・『家族が仲良く、一緒に過ごす時間を増やしてほしい』、『小学4～6年調査(平成14年

度)』では『友達や兄弟姉妹とくらべないでほしい』・『自分のことは自分で決めさせてほしい』・『話を真剣に聴く：話をもっと真剣に聞いてほしい』、『中学・高校生調査(平成14年度)』では『きまりや約束ごとを一方的に押しつけないでほしい』・『ねほりはほりきいたり、あれこれ世話をしないでほしい』の順。

他地域の上位3位は、5地域(G・C・D・E・F自治体)の『おとな調査』、では『話を真剣に聴く：話をもっと真剣に聞いてほしい』・『約束を守ってほしい』・『家族が仲良く、一緒に過ごす時間を増やしてほしい』、1地域(G自治体)の『子ども調査』では『話を真剣に聴く：話をもっと真剣に聞いてほしい』・『きまりや約束ごとを一方的に押しつけないでほしい』・『自分のことは自分で決めさせてほしい』、1地域(C自治体)の『子ども調査』では『ねほりはほりきいたり、あれこれ世話をしないでほしい』・『友だちや兄弟姉妹とくらべないでほしい』・『きまりや約束ごとを一方的に押しつけないでほしい』、1地域(D自治体)の『子ども調査』では『きまりや約束ごとを一方的に押しつけないでほしい』・『ねほりはほりきいたり、あれこれ世話をしないでほしい』・『友だちや兄弟姉妹とくらべないでほしい』、1地域(E自治体)の『子ども調査』では『ねほりはほりきいたり、あれこれ世話をしないでほしい』・『きまりや約束ごとを一方的に押しつけないでほしい』・『友だちや兄弟姉妹とくらべないでほしい』、1地域(F自治体)の『子ども調査』では『ねほりはほりきいたり、あれこれ世話をしないでほしい』・『友だちや兄弟姉妹とくらべないでほしい』・『話を真剣に聴く：話をもっと真剣に聞いてほしい』の順。

よって、子どもと接するときのおとな心がけとしては、西東京の子どもたちは、きまりや約束ごとを一方的に押しつけないでほしい・自分のことは自分で決めさせてほしいことが多いが、他地域では、ねほりはほりきいたり、あれこれ世話をしないでほしいが多い。また、おとなは、西東京も他地域もかわりがなかった。

5. まとめ

この調査で明らかになった各調査の特徴をまとめると、以下のとおりである。

- | |
|---|
| <p>①自身のこと…(1)回答者の年齢：『おとな調査』は40歳代。『小学5年調査』・『中学2年調査』・『16・17歳調査』は対象年齢が最も多い。(2)性別：『小学5年調査』は、男女がほぼ同じ。『中学2年調査』・『16・17歳調査』・『おとな調査』は、女性が多い。(3)平日していること：『小学5年調査』・『中学2年調査』・『16・17歳調査』は、学校へ通っているが大半。(4)西東京市でくらしたいか：『小学5年調査』・『おとな調査』はくらしたいが多い。『中学2年調査』・『16・17歳調査』は西東京市で暮らしたいと別の場所でくらしたいとがほぼ同じ。</p> <p>②自分のこと…(1)自分のことを好きだ(自己肯定感)と思うが多いのは、『小学5年調査』・『おとな調査』。思わないが多いのは、『中学2年調査』。思う・思わないがほぼ同じなのは、『16・17歳調査』。(2)自分は人から必要とされていると思うが多いのは、『小学5年調査』・『おとな調査』。思わないが多いのは、『中学2年調査』。思う・思わないがほぼ同じなのは、『16・17歳調査』。(3)自分のことを誰もわかってくれないと思わないが多いのは、『小学5年調査』・『中学2年調査』・『16・17歳調査』・『おとな調査』。(4)周りの人とあまり違わないようにしていると思う・思わないがほぼ同じなのは『小学5年調査』・『中学2年調査』・『おとな調査』、思わないが多いのは『16・17歳調査』。(5)社会に役立つことをしたいと思うが多いのは、『小学5年調査』・『中学2年調査』・『16・17歳調査』・『おとな調査』。</p> <p>③楽しく夢中になれると感じるとき…『小学5年調査』・『おとな調査』は、『友だちと遊んでいるとき』・『学校での休み時間』・『クラブ活動・部活動』。『中学2年調査』・『16・17歳調査』は、『友だちと遊んでいるとき』・『クラブ活動・部活動』・『テレビやDVDを観ているとき』。</p> <p>④疲れること・不安に思うこと…『小学5年調査』は、『学校の勉強・宿題』・『受験・進路』・『塾での勉強・宿題』。『中学2年調査』は、『学校の勉強・宿題』・『受験・進路』・『友だちや先輩のこと』。『16・17歳調査』は、『学校の勉強・宿題』・『受験・進路』・『クラブ活動・部活動』。『おとな調査』は、『受験・進路』・『学校の勉強・宿題』・『塾での勉強・宿題』。</p> <p>⑤ホッとできるとき…『小学5年調査』は、『友だちと遊んだりしているとき』・『寝ているとき』・『家族と遊んだり話したりしているとき』。『中学2年調査』は、『寝ているとき』・『友だちと遊んだりしているとき』・『自分の部屋にいますとき』。『16・17歳調査』は、『寝ているとき』・『自分の部屋にいますとき』・『友だちと遊んだりしているとき』。『おとな調査』は、『友だちと遊んだりしているとき』・『家族と遊んだり話したりしているとき』・『寝ているとき』。</p> <p>⑥何でも話せる人…『小学5年調査』・『おとな調査』は、『親』・『友だち』・『兄弟姉妹』。『中学2年調査』・『16・17歳調査』は、『友だち』・『親』・『兄弟姉妹』。</p> <p>⑦(1)友だちや先輩などからされたつらくてどうしようもないこと…『小学5年調査』は、『心を傷つけられる言葉を言われた』・『無視された、仲間外れにされた』・『されたことはない』。『中学2年調査』・『16・17歳調査』は、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『無視された、仲間外れにされた』。『おとな調査』は、『心を傷つけられる言葉を言われた』・『されたことはない』・『無視された、仲間外れにされた』。(2)その時の対応法…『小学5年調査』は、『誰か他の人に相談した』・『がまんした』・『やめてほしいと言った』。『中学2年調査』・『16・17歳調査』は、『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『やめてほしいと言った』。(3)相談相手・相談場所…『小学5年調査』・『16・17歳調査』は、『親』・『友だち』・『担任の先生』。『中学2年調査』は、『友だち』・『親』・『担任の先生』。(4)相談してよかったか…相談してよかったが多いのが、『小学5年調査』・『中学2年調査』・『16・17歳調査』。</p> <p>⑧(1)子どもがおとなからされたつらくてどうしようもないこと…(1)先生(学校や児童福祉施設の先生)から：『小学5年調査』・『中学2年調査』は、『されたことはない』・『話を聞いてもらえなかった』・『心を傷つける言葉を言われた』。『16・17歳調査』・『おとな調査』は、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』。(2)</p> |
|---|

親(保護者)から：『小学5年調査』・『16・17歳調査』・『おとな調査』は、『されたことはない』・『たたかれた・けられた』・『話を聞いてもらえなかった』。『中学2年調査』は、『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『たたかれた・けられた』。3) 塾や習い事の先生・監督・コーチから：『小学5年調査』は、『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『たたかれた・けられた』；話を聞いてもらえなかった。『中学2年調査』は、『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『たたかれた・けられた』。『16・17歳調査』・『おとな調査』は、『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』。4) その他のおとなから：『小学5年調査』は、『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『たたかれた・けられた』；話を聞いてもらえなかった。『中学2年調査』・『16・17歳調査』は、『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『体を触られたり、性的に嫌なことをされた』。『おとな調査』は、『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』。(2) 『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応法…『小学5年調査』・『16・17歳調査』は、『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『何もしなかった』。『中学2年調査』は、『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『何もしなかった』；しかえしをした。(3) 相談相手・相談場所(上位3位)…『小学5年調査』は、『親』・『友だち』・『祖父母』。『中学2年調査』は、『友だち』・『親』・『兄弟姉妹』。『16・17歳調査』は、『友だち』・『親』・『インターネット掲示板；保健室の先生；その他』。(4) 相談してよくなったか…相談してよくなったが多いのは、『小学5年調査』・『中学2年調査』・『16・17歳調査』。

⑨(1) 知っている子どもの相談機関…『小学5年調査』は、『学校内の相談室』・『児童館』・『チャイルドライン』。『中学2年調査』・『16・17歳調査』は、『学校内の相談室』・『児童館』・『児童相談所』。『おとな調査』は、『児童館』・『児童相談所』・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』。(2) 利用した子どもの相談機関…『小学5年調査』は、『児童館』・『学校内の相談室』・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』。『中学2年調査』・『16・17歳調査』は、『児童館』・『学校内の相談室』・『保育園』。『おとな調査』は、『児童館』・『保育園』・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』。(3) 知っているけど利用したことがない理由(上位2位)…『小学5年調査』は、『相談することがないから』・『相談した後どうなるのかわからないから』。『中学2年調査』・『16・17歳調査』は、『相談することがないから』・『相談しても、よくならないと思うから』。(4) 利用したきっかけ(『おとな調査』のみ)…『信頼できる機関だと思ったから』・『子どもに関する事案を相談したかったから』・『これまでに何回か利用したことがあるから』。

⑩相談しようと思う相談窓口…『小学5年調査』は、『聞いたことは秘密にしてくれる』・『どんな話でも聞いて受け止めてくれる』・『自分と年齢の近い子ども・人に相談できる』。『中学2年調査』は、『聞いたことは秘密にしてくれる』・『どんな話でも聞いて受け止めてくれる』・『問題の解決法を教えてくれる』。『16・17歳調査』は、『聞いたことは秘密にしてくれる』・『どんな話でも聞いて受け止めてくれる』・『適当なアドバイスをくれる』。『おとな調査』は、『どんな話でも聞いて受け止めてくれる』・『聞いたことは秘密にしてくれる』・『メールで相談できる』。

⑪子どもが、子ども自身のことや暮らしのことの決め方…1) 自分で決めたいこと：『小学5年調査』は、『友達』・『恋愛』・『進路や将来』。『中学2年調査』・『16・17歳調査』・『おとな調査』は、『友達』・『恋愛』・『服装・髪型・ファッション』。2) 親やおとなに相談して自分で決めたい：『小学5年調査』は、『学校に行くか、休むか』・『塾や習い事に行くかどうか』・『風呂・食事・勉強などの生活時間』。『中学2年調査』は、『進路や将来』・『塾や習い事に行くかどうか』・『学校に行くか、休むか』。『16・17歳調査』は、『進路や将来』・『引っ越し・家などの大きな買い物』・『仕事・アルバイト』。『おとな調査』では、『進路や将来』・『塾や習い事に行くかどうか』・『仕事・アルバイト』。3) 親やおとなに相談して一緒に決めたい：『小学5年調査』は、『引っ越し・家などの大きな買い物』・『家族のイベント』・『門限など家庭内のルール』。『中学2年調査』・『16・17歳調査』は、『家族のイベント』・『親の離婚・再婚』・『引っ越し・家などの大きな買い物』。『おとな調査』では、『家族のイベント』・『親の離婚・再婚』・『門限など家庭内のルール』。4) 親やおとなに決めてほしいこと(上位3位)：『小学5年調査』は、『市の重要なこと』・『授業の内容』・『お祭りなど地域の行事』。『中学2年調査』は、『市の重要なこと』・『授業の内容』・『児童館・公園の使い方』。『16・17歳調査』は、『市の重要なこと』・『授業の内容』・『お祭りなど地域の行事；親の離婚・再婚』。『おとな調査』は、『市の重要なこと』・『子どもに係わる市の重要なこと』・『授業の内容』。5) きょうだいや友だちなど子どもに相談して自分で決めたい：『小学5年調査』は、『クラスのルール』・『運動会など行事』・『児童会や生徒会の活動』。『中学2年調査』は、『恋愛』・『児童会や生徒会の活動』・『クラスのルール』。『16・17歳調査』は、『服装・髪型・ファッション』・『恋愛』・『児童会や生徒会の活動；授業の内容；塾や習い事に行くかどうか』。『おとな調査』は、『児童会や生徒会の活動』・『担任の先生』・『恋愛』。6) きょうだいや友だちなど子どもに相談して一緒に決めたい：『小学5年調査』は、『クラスのルール』・『児童会や生徒会の活動』・『運動会など行事』。『中学2年調査』・『おとな調査』は、『クラスのルール』・『運動会など行事』・『児童会や生徒会の活動』。『16・17歳調査』は、『運動会など行事』・『クラスのルール』・『児童会や生徒会の活動』。7) 他の子に決めてほしい：『小学5年調査』は、『児童会や生徒会の活動』・『クラスのルール』・『子ども会議など子どものための会のこと』。『中学2年調査』・『16・17歳調査』は、『児童会や生徒会の活動』・『子ども会議など子どものための会のこと』・『運動会など行事』。『おとな調査』は、『児童会や生徒会の活動』・『子ども会議など子どものための会のこと』・『市の重要なこと；子どもに係わる市の重要なこと』。

⑫子どもと接するときのおとな心がけ…『小学5年調査』は、『話を真剣に聴く：話をもっと真剣に聞いてほしい』・『友達や兄弟姉妹とくらべないでほしい』・『自分のことは自分で決めさせてほしい』。『中学2年調査』は、『自分のことは自分で決めさせてほしい』・『きまりや約束ごとを一方的に押しつけないでほしい』・『友達や兄弟姉妹とくらべないでほしい』。『16・17歳調査』は、『きまりや約束ごとを一方的に押しつけないでほしい』・『自分のことは自分で決めさせてほしい』・『ねほりはほりきいたり、あれこれ世話をしないでほしい』。『おとな調査』は、『話を真剣に聴く：話をもっと真剣に聞いてほしい』・『約束を守ってほしい』・『家族が仲良く、一緒に過ごす時間を増やしてほしい』。